

◆鹿城祭に寄せて◆

「it」に込められた思い

～ ^{イツォー}120ライツ! |'|| do it! ~

仮装行列、ステレオコンサート、フォークダンス、弁論大会、討論会。これらは第1回の学園祭（文化祭・体育祭）にあり今はないものである。仮装行列は学園祭前日、出雲大社の大鳥居をくぐり勢溜から四つ角を経て、学校（現在の大社中学校の場所）にもどってくるコースで、学園祭の宣伝を兼ねた市中パレードである。

文化祭と体育祭を融合したこの第1回学園祭は昭和42年に開催された。つまり約50年前に遡る。文化祭開催の機運が起こりはじめた昭和40年当時の社高新聞に生徒の主張が書かれている。「県下の他の高等学校においては、一部の学校を除いて文化祭はもちろん、学校によっては総合的な学園祭までも行っている。せめて文化部全体が一斉に発表できる場、文化祭を設けるべきである。」また当時の校長もこの生徒の動きに応じ、「来年が本校創立70周年になるが、この時には大社高校の本当の姿を県下の人々に示したい。」と述べている。学園祭は、文化部全体が一斉に発表できる場、大社高校の本当の姿を県下の人々に示す場として始まったようである。

今年の文化祭の催しには、講演会、合唱コンクール、クラス催し物など第1回学園祭にはなかったものも多い。学園祭は学校や生徒を取り巻く環境や流行、メディアからの影響など様々なものが絡み合い変化してきている。

このような流れの中で私たちが考え共有しなくてはならないものは、今回のテーマにある「it」である。今年の学園祭テーマは「^{イツォー}120ライツ! |'|| do it! ~始まる120回目の青春~」。生徒たちが情熱を持って取り組むもうとすることそれがit。テーマへの思いとしては「これまでの伝統を引き継ぎながら、新しい取り組みも始めたい。」と聞いている。体育祭を今年初めて出雲ドームで行うことも一つの新しい取り組みだ。

文化「culture」は、「耕す」を意味する言葉に語源を持つと聞く。耕すことは土壌を活性化させる効果がある。土を人間精神に置き換えれば、文化は人の心や精神に潤いや活力をもたらす「もの」や「こと」ということになる。植物の成長に新鮮な空気、水分、肥料を必要とするように、人間の精神にも新鮮な活動つまりは創造的活動が必要である。その活動こそが「it」でないだろうか。

さて生徒の皆さんはこの学園祭で「it」をどのように表現してくれるのだろうか。多様な表現のしかたがあっていい。クラス催し物を始めとする催しも、誰に楽しんでもらうのか、何を楽しんでもらうのか考えつつ、独りよがりにならない独創性とホスピタリティー、そして協働性を感じるものに創りあげてほしい。

※「鹿城祭パンフレット巻頭言」より

平成30年8月30日

島根県立大社高等学校
校長 吉田 彰二